

●三位一体後第二十六主日

泉のほとり

今月の詩編 「第三十七編」

主に従う人は、口に知恵の言葉があり

その舌は正義を語る。

神の教えを心に抱き

よろめくことなく歩む。



キリストに結ばれて

品川教会は1935年4月25日に始められた五反田教会、もしくは1945年8月に品川教会との名で再出発した時を「教会記念日」と定めています。1949年11月に行われた2回目のバザーの出来事を記念し、毎年、11月を教会記念日として祝っています。連日の雨の中、バザーを行う間だけ、雨が止み、また再び雨が降り出し、その後、数日間雨が降り続いたのです。教会員はそのように神が関わってくださったことに、紅海を渡る神の御業を思い起こしました。

神はエジプトを出たイスラエルを「近道」であつたペリシテ街道には導かれませんでした。民が戦わねばならぬことを知り、後悔し、エジプトに帰ろうとすると思われ、紅海へ通じる荒野の道に迂回させられたのです。一方、その時、心を頑なにしたファラオはイスラエルの民を追いかけ、イスラエルは、後ろにはエジプトの兵士たちが、目の前には海という、全く逃げ道のない状況におかれてしまうのです。その状況は神から出たことでした。戦いを恐れるイスラエルを配慮されたゆえに与えられた道でした。

人の目には「行き止まり」としか見えない。しかし、神に導かれる道には「行き止まり」など「ない」ことをお示しくださいました。神は雨を動かされました。偶然ではありません。イスラエルの民にご自身を表してくださいましたように品川教会にも表してくださいました。

何よりご一緒に記憶し、共有したいことは、この教会記念日は「イエス・キリスト」を指し示すものでなくてはなりません。「イエス・キリストを土台とする教会」を証しするもの。言葉を変えて言いますと、イエス・キリストゆえにこの教会記念日があるのです。

紅海を渡らせられた神はイスラエルに、荒野を通らせ、神の山に導かれ、彼らと「契約」を結びました。それが「シナイ契約」と呼ばれるものです。「エジプトからの救い」は彼らと

されたのは、イスラエルをご自分の宝、聖なる民、祭司の国とすることでした。そのために、主なる神は神殿を与えられ、祭司を立てられ、ご自分の命令、教えに従い、罪と悪の道を離れ、隣人を自分のように愛することを契約内容とされたのです。

人の目には「海が二つに分かれ、その道を通る」ことの方が大いなる御業に見えるかもしれませんが、神はそのシナイ契約を通して、それを遙かに超えることをご自分の民になさろうとされたのです。

主イエスはこの地上で多くの奇跡やしるしをお示しになりました。死んだ人を生き返らせ、見えない人の目を開け、聞こえない人の耳を開き、足の萎えた人を立ち上げさせました。数々の奇跡のすべてが尊い神の御業です。しかし、それらすべてが私たちのためになされた十字架の神の御業に及ぶものでしょうか。紅海を分けられた民と「シナイ契約」を結ばれた神はその契約を超える、人が十字架の血による「新しい契約」に生きるようにとされたのです。

教会記念日を感じ、75年前、教会に示された奇跡は、キリストの血による契約に結びつくためのもの、人を新しい契約に生かすためのもの、後の世代の人たちもその契約がもたらす奇跡、神の業を見ることの始まりであることの意味を心深く受け止めたいのです。それこそ教会の原点、私たちの教会のみならず、使徒から始まる、世界を超え、歴史を超え、すべての教会がキリストにあつて一つとなる、今日も私たちが使徒信条をもって告白したその「公同教会」を継承するものであるとの教会のアイデンティティーを証ししています。

目に見える雨を通して目に見える教会の建物が与えられたことをしるしに、キリストを通して目に見えない天の宝に与らせる教会が示されたことを感謝し、記念し、大いにお祝いし、使徒たちの上に立つ、目に見えない揺るぎのない「公同教会」としてのアイデンティティーを一層、確かなものとして歩んでいきたいと心から願っています。

2024年度

教会全体課題

聖書の御言葉に生きる。

わたしたちのヴィジョン

主イエスの愛の中で、

愛と交わりを通して

お互いに成長する教会

《今日のお知らせ》

○本日の主日礼拝から詩篇交読を再開します。詩篇は三面を御覧ください。

○本日、午後二時から内田守兄の葬儀を礼拝堂で行います。

○二七日(水)午後二時から吉田晴子姉の葬儀を礼拝堂で行います。

○十一月二九日(金)～一二月四日(水)まで、大崎の○美術館で行われる幼児画展覧会に、附属幼稚園クローバー組の園児たちの作品が展示されます。ぜひ足を運び、ご覧ください。

《ルツの会より》

主日礼拝終了後一五分後に公開ルツの会をカナルームで行います。出エジプト記一～一三章を学びます。

聖書・讃美歌をお持ちの上、ご参加ください。

《ぶどうの会より》

本日のぶどうの会は休会です。

《手仕事の会オリブより》

本日十一月二四日に、販売をいたします。手作りのアドベントカレンダーも新しく登場です。時間は、一〇時から一〇時二〇分までと、一一時四五分から一二時三〇分までの二回です。場所は事務所前の園庭を予定しています。よろしくお願いいたします。(ケーキは十一月八日に扱います)

《シオンの会より》

十一月二七日(水)一〇時三〇～一二時シオンの会を第二第三シオンルームで行います。(オンラインも併用します)

テキスト「聖書が教える世界とわたしたち」P.141

◆救いの実現 (一九) 十字架の死、主イエスの十字架は、神が人間を救うために起こされたから読みます。参加をご希望の方は川越啓子姉までご連絡ください。

《教育奉仕委員会より》

十一月三日に今年度の「証しと祈りの会」発表者募集のお知らせを配布しました。募集の締め切りは三日です。皆様のご応募をお待ちしております。

《交読詩篇》

※会衆は太字を唱和します。

【詩篇四十六篇】

指揮者に合わせて。コラの子の詩。アラモト調。歌

神はわたしたちの避けどころ、わたしたちの砦。

苦難のとき、必ずそこにいます

助けてくださる。

わたしたちは決して恐れない

地が姿を変え

山々が揺らいで海の中にも移るとも

海の水が騒ぎ、沸き返り

その高ぶるさまに山々が震えるとも。

大河とその流れは、神の都に喜びを与える

いと高き神のいます聖所に。

神はそこの中にいますし、都は揺らぐことがない。

夜明けとともに、神は助けをお与えになる。

すべての民は騒ぎ、国々は揺らぐ。

神が御声を出されると、地は溶け去る。

万軍の主はわたしたちと共にいます。

ヤコブの神はわたしたちの砦の塔。

主の成し遂げられることを仰ぎ見よう。

主はこの地を圧倒される。

地の果てまで、戦いを断ち

弓を砕き槍を折り、盾を焼き払われる。

「力を捨てよ、知れ

わたしは神。

国々にあがめられ、この地であがめられる。」

万軍の主はわたしたちと共にいます。ヤコブ

の神はわたしたちの砦の塔。

《今日の子ども礼拝》

説教 「大切なものはひとつだけ」

聖書 ルカ10章38〜42節

説教者 吉村和雄名誉牧師

《次週の礼拝》

●子ども礼拝(午前9時20分・地下ホール)

説教 「この子の名はヨハネ」

聖書 ルカ1章57〜64節

説教者 宮間彰広兄

●主日礼拝(午前10時30分)

讃美歌 97番 95番

説教 「希望をもってクリスマスへ」

聖書 ルカ1章5〜25節

説教者 吉村和雄名誉牧師





主日礼拝 (午前10時30分)

讃美歌 354番 140番
説教 「杯を飲むべきではないか」
聖書 ヨハネ18章1～11節(新約 P.203)
司式 石川一兄
聖餐司式 黄允湜 牧師
説教者 黄允湜 牧師

前奏曲「父なる神よ、我らと共に住みたまえ」J.S.バッハ

○讃美歌354番

1. 牧主わが主よ まよう我らを
若草の野べに 導きたまえ
われらを守りて 養いたまえ
我らは主のもの 主に贖わる
2. 良き友となりて 常にみちびき
まよわば尋ねて ひき返りませ
われらの祈りを 受入れたまえ
我らは主のもの ただ主に頼る
3. 赦しのみちかい 救いのめぐみ
きよむる力は 皆主にぞある
我らをあがない 生命をたまう
我らは主のもの 主に在りて生く
4. 御慈愛をば 我らに満たし
今よりみむねを なさしめ給え
我らをあわれむ み恵みふかし
我らは主のもの 主をのみ愛す

アーメン

○讃美歌140番

1. いのちのいのちに ましますイエスよ
主イエスはわがため その身をすてて
ほろびのふちより みちびきいだし
くちぬいのちを あたえたまえり
2. ああ主よ、主イエスは はじをものび
わがためのろいを 身に負いたまい
あくまのわなより すくいいたして
とわのやすきを さずけたまえり
3. ああ主はわがため 十字架をとりて
たかぶりおごりを みなうちくだき
死ぬべき罪より あがないいだし
あまつさかえを えさせたまえり
4. わが身にかわりて 死にたるイエスよ
十字架をあおげば なくさめつきず
なやみもおそれも すべて消えゆく
主のみめぐみは ありがなきかな

アーメン

聖餐曲「アンダンテ」(オルガン協奏曲へ長調より)

G.F.ヘンデル

後奏曲「目覚めよ、と呼ぶ声が聞こえ」J.S.バッハ

※礼拝のしおりと讃美歌をお持ちください。